

次の節目に向け新たな出発

横浜清風学園

創立100周年記念祝賀会特集

建学の精神を堅持



長谷部真道・高野山真言宗管長



今川泰伸・高野山真言宗宗務総長

横浜清風学園(横浜市保土ヶ谷区)は11月7日、創立100周年記念祝賀会を横浜市西区の横浜ロイヤルパークホテルで開いた。高野山真言宗の長谷部真道管長ら宗派の要職者をはじめ、学校関係者、卒業生らが一堂に会し、記念すべき節目を盛大に祝った。

自身の個性、キャリア 見つけて次代に対処

横浜清風高校吹奏楽部の生徒が演奏を披露し、式典に花を添えた。歓迎の言葉を述べた藤井義章・学園理事長は学園の歴史を振り返り、「時代や名称が変わっても建学の精神は変わらない」と強調。「学校の興隆・衰退は、携わる人々に信念や信仰に基づく精進努力、思いやり、優しさがあるかどうか、人としての道を歩んでいるかどうかで決

まると考える。過去を振り返って建学の精神を再確認し、次の100年に向けて再出発したい」と語った。

続いて挨拶した長谷部管長は、弘法大師の生誕1250年に当たる今年に学園が節目を迎えたことを喜んだ。戦争や災害、国際化の進展など100年間の世界の変化にも言及し、「自分自身の個性、キャリアを見つけて次の時代に

処してもらいたい」と生徒らを激励。「学園が建学当初に迎えた十一面観世音菩薩像の、それぞれの面が持つ心を駆使して菩薩の対応をなす姿



四季の花に彩られる校舎



藤井義章・学園理事長



植野法徳・横浜清風高校学校長

のよつに、今後も深く、広く発展してほしい」と話した。県・市の教育関係者も出席。神奈川県立立川高等学校校協会の工藤誠一理事長は「同校は次代を創造する若人の熱い思いと眼差しに溢れている。1世紀の歴史と伝統の中で、仏教精神を受け継ぐ卒

業生が多く活躍していることは学園の誇り。この伝統が永久に続くことを確信している」と話した。乾杯の発声に立った今川泰伸宗務総長は「今年には御生誕1250年、11年後は御入定1200年となる。お大師様が布教されてきたみ教えを、

横浜清風学園の歩み
横浜清風学園の前身である「横浜家政女学校」は1923年に創立。27年に「明倫高等女学校」と改称し、29年に横浜市内の真言宗63カ寺の共同経営として高野山の所屬となった。戦後に「明倫高等学校」となり、2001年に現在の校名「横浜清風」の名を採用。弘法大師が開いた綜芸種智院の理念「仏教の理想とする人間完成」を建学の精神に据えている。



学園同窓会の安田節子会長



県私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長

綜芸種智院創設の心を体する同校が今も世の中で実践していることは本場にありがたい」と語った。卒業生を代表し、同校で教員を長く務めた安田節子・同窓会長が登壇した。安田会長は「講堂での毎朝の勤行が一番の思い出。当時は円形校舎ができた直後で、まさに学校が発展していく希望に満ちていた頃だった」と回想し、「学園は私の人生そのもの。人一倍の感謝の気持ちでいっぱい」と心境を語った。

最後に感謝の言葉を述べた植野法徳・横浜清風高校学校長は「節目の意義や年月の重みを生徒も理解できるように準備を進めてきた」と話し、在校生が作詞・作曲したアニメーションソングの映像を披露。「学校はその時代で教職員も生徒も変わる。長い歴史の中で一人一人は一つの点だが、点が集まれば大きな固まりとなり、繋がって線となり、やがて川のような流れとなる。未来に向かってこの流れをさらに大きく、強くしていきたい」と決意を新たに話した。